

努力賞
(子どもの部)

「これからも なかよくね」

荒川区立第二瑞光小学校二年

金澤 あおば

きつねさん、せっかくゲームでぜんぶかったのに、ずるしたって言われてかなしかったでしょ。しかも、雨がふっているのに外に出されて、ますますかなしくて、くやしくてわる口を言っちゃったんだよね。そんな気もちわかるよ。

でもね、わたしも友だちとゲームをやってぜんぜんかてなかったとき、

「もう一回やって、ぜったいかつから。」
と言ったのにまたまけたんだ。わたしはくやし

て、いやになっちゃって「もうやらない」プイッと なっちゃったんだよ。おおかみくんはそんな気もちだったと思うんだ。つぎの日、ねておきてもいい気分でおきれなかったし。おおかみくんもきつと しょぼんとなっているよ。

きつねさんはそのあと、わるかったなあと思ってあやまりにはらっぱに行ったんだよね。でも、なかなか「ごめんね」が言えなくてぎんねんだったよ。 だったら、お手がみに書いてみたらいいと思うな。こう書くんだよ。

『おおかみさんへ

この前は、ごめんね。すぐにあやまれなくて。今 だったら言えるよ。だって一ばんの友だちなんだもの。大すきだよ。』

ってね。そして、ポストに入れるんだよ。きつとす

ぐになかなおりできるよ。今までずっといっしょにあそんでいたんだもん。きっとわかってくれるよ。

友だちっていいよね。いっしょにあそべるし、こまったときにもたすけてくれる。二人でなかなおりしてうたったうたとってもたのしそうだったよ。いいね。よかったね。いつまでもななかよくね。